

## ロシア産シジミの輸入状況、2006年～2012年

安木 新一郎\*

## The Import of Corbicula (Clam) from Russia, 2006-2012

Shinichiro Yasuki\*

## キーワード

ロシア、北朝鮮、シジミ、産地偽装

## 1 問題の所在

2007年以降ロシアからのシジミ輸入量が急増している一方、ロシア産シジミを含む輸入シジミの国内産地偽装事件があとを絶たない。

農林水産省はシジミの種識別について、「シジミにつきましては、我が国及び海外に分布するヤマトシジミと、海外に分布し最近は移植により我が国でも分布の可能性も指摘される他の複数のシジミ類貝類の鑑別は、ハマグリ以上に困難であり、通常は「シジミ」と表示するのが無難であり、一般社会での用語とも一致すると考えています。ただし、ヤマトシジミであることが明確な場合に、「ヤマトシジミ」の表示をすることは差し支えないと考えています。」(平成19年「魚介類の名称のガイドラインについて(中間とりまとめ)」の改正案に寄せられたご意見等の概要とご意見等に対する考え方について)と回答している。

しかしながら、ロシア産および北朝鮮産の汽水性シジミ類をヤマトシジミと一括表示するのはためらわれる。例えば、ロシア産といっても樺太産であればヤマトシジミであるが、沿海地方産はヤマトシジミであると必ずしも同定されているわけではない。

本稿では、財務省、農林水産省、経済産業省といった政府発表資料、新聞報道、ロシア側統計資料にもとづいて、2006年～2012年のロシア産シジミの輸入状況について概括する。その上で、ロシア産シジミの中に北朝鮮産シジミが混入している可能性があることを指摘する<sup>1</sup>。

## 2 シジミの輸入動向

日本国内におけるシジミ漁獲量は、1960年代の50千トンにピークに減少の一途をたどり、2006年には13.4千トン、2008年にはついに10千トンを割り込み、2011年は9.2千トンとなっている。一方、輸入量も激減しており、国内消費量を上回る時期もあったが、2006年に5.9千トン、2012年には3.8千トンにまで落ち込んでいる(表1)。したがって、シジミの

\*やすき しんいちろう：大阪国際大学国際コミュニケーション学部講師〈2013.9.22受理〉

国内自給率は2006年～2012年では7割～8割の水準を維持している（表2）。

シジミの国別輸入量を見てみよう。2006年～2012年の輸入統計で特徴的として、①2006年以降、北朝鮮からの輸入がないこと、②2007年以降、韓国および中国からの輸入量が激減していること、③代わりにロシアからの輸入が増加していること、の3点を挙げることができる。

重量ベースで見ると（表3）、2006年に輸入総量の24.6%が北朝鮮からであったが、2006年10月に拉致問題をきっかけとする対北朝鮮経済制裁の発動にともないシジミの輸入が禁止され<sup>2</sup>、2007年以降公式統計には現れなくなっている<sup>3</sup>。

韓国からのシジミ輸入割合も2008年の27.4%に2009年から一挙に落ち込んでいる。しかも韓国から輸入されるシジミのすべてが韓国で漁獲されたものとは限らない。また、中国からのシジミ輸入割合の落ち込みは韓国以上で、2011年にはほぼ消滅した。2012年に中国からの輸入量が691トンまで回復したが、これもまた中国で漁獲されたシジミで構成されているとは限らない。こうした第3国経由のロシア産シジミ輸入については第3節で解説する。

従来まで主要なシジミ輸出国であった中国、北朝鮮、韓国に代わってロシアが台頭し、2009年以降、ロシアからの輸入量は全体の7割～8割を占めるまでになった。

また、正確な数値は明らかではないものの、ロシア産シジミが韓国や中国を経由して輸入される場合もあるため、2009年以降の公式統計上の輸入総量に占めるロシアで漁獲されたシジミの割合は8割前後を維持している可能性がある。

### 3 ロシア産シジミの迂回輸出に対する疑問

表5にある2012年の100g当たりの輸入単価を見ると、ロシアが最も安価で12.7円であり、韓国の29.4円や中国の21.8円と比べるとロシアものは半分程度である。ここで疑問が発生する。なぜシジミ輸入業者はロシアから直接ではなく、わざわざ輸入単価が上昇するような韓国や中国といった第3国迂回輸入を行っているのか。

また、前稿でも述べたように<sup>4</sup>、ロシア極東には無数のシジミ生息地が存在するが、漁獲が認可されているのはロシア沿海地方のラズドリナヤ河口のみで、年間漁獲割当量は500トンにすぎず（表6）、仮に2007年以降も漁獲割当量にあまり変化がないとすれば、違法に割当量以上の漁獲が行われているか、あるいはロシア産への偽装またはロシアから輸出されたように見せかけている可能性が否定できない。

日本政府はロシア産シジミおよびロシアからの輸出物の中に北朝鮮産シジミが混入しているのではないかと危惧している<sup>5</sup>。

以下では韓国からの輸入しじみの産地偽装事件について考察する。

2007年7月～2008年5月に福岡県のシジミ販売業者Aは、韓国産約11トンとロシア産約64トンのシジミを同じく福岡県にいる韓国籍のBおよびBを社長とするシジミ輸入業者C株式会社から買い付け、伝票に島根県産と表示して卸売業者に転売していた<sup>6</sup>。また、2012年1月にA、Bを含む5人は共謀して韓国から輸入したロシア産シジミ10キログラムを宍道湖産と偽り、福岡県内のスーパーに7,500円で販売したのが明らかになった<sup>7</sup>。

BおよびC社は2008年12月に、奢侈品（たばこ1万本、日本酒12本）について、経済産業

ロシア産シジミの輸入状況、2006年～2012年

大臣の承認を受けないで、北朝鮮に輸出するための経由地として中国・大連に向けて輸出したとして経済産業省より2か月間の営業停止処分を受けている<sup>8</sup>。

この事例から、BおよびC社は、北朝鮮に商品を輸出すると同時に、韓国産およびロシア産と偽って韓国から北朝鮮産シジミを輸入したように見せかけ、さらにその輸入しじみを国産に偽装していたことが推測される。

#### 4 まとめ

現在、国産しじみ価格の高騰を主因の一つとして、輸入しじみの国産産地偽装事件があるとを絶たない。また、こうした輸入しじみの一定部分が禁輸措置のとられている北朝鮮産である可能性があるのは極めて重大な問題である。

今後は、シジミ輸入に関して貝殻の成分分析やミトコンドリアDNAによる識別により、輸入される水際で偽装を見抜くことが求められていると言えるであろう。

#### 附記

本稿は、平成23～25年度大阪国際大学戦略的経費「休耕田を利用した地域連携プロジェクトにもとづく実践学習プログラム」（代表者：古殿幸雄・大阪国際大学ビジネス学部長）の研究成果の一部である。

表1 シジミ国内漁獲量と輸入量（単位：トン）

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
日本	13,412	10,942	9,888	10,432	11,189	9,241	
輸入	5,881	4,063	2,541	2,995	3,917	4,263	3,801
内訳：韓国	964	1,172	696	249	184	73	37
北朝鮮	1,447	0	0	0	0	0	0
中国	3,034	2,201	363	250	230	81	691
台湾	77	82	252	195	228	390	388
ロシア	359	608	1,229	2,300	3,275	3,719	2,684
合計	19,293	15,005	12,429	13,427	15,106	13,504	

出所）国内漁獲量：農林水産省統計。輸入量：財務省貿易統計。以下、同じ。

注）1年は1月～12月まで。輸入量は「生きているもの、生鮮のもの及び冷蔵したもの」だけであり、「冷凍したもの」は数量・金額ともに小さいため除外してある。以下、同じ。

表2 シジミ国内生産量と輸入量の比率（単位：%）

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011
日本	69.5	72.9	79.6	77.7	74.1	68.4
輸入	30.5	27.1	20.4	22.3	25.9	31.6

注）表1の「合計」に占める「日本」と「輸入」の割合。

国際研究論叢

表3 国別年ごとシジミ輸入に占める割合（重量ベース）（単位：％）

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
韓国	16.4	28.9	27.4	8.3	4.7	1.7	1.0
北朝鮮	24.6	0	0	0	0	0	0
中国	51.6	54.2	14.3	8.3	5.9	1.9	18.2
台湾	1.3	2.0	9.9	6.5	5.8	9.2	10.2
ロシア	6.1	15.0	48.4	76.8	83.6	87.2	70.6

出所) 表1より筆者算出。

表4 国別シジミ輸入金額（単位：千円）

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
輸入	881,088	763,307	662,514	604,931	703,411	753,732	643,672
韓国	367,434	436,866	211,824	65,761	50,621	22,841	11,015
北朝鮮	211,593	0	0	0	0	0	0
中国	209,503	176,295	34,544	32,889	33,605	14,736	150,474
台湾	41,192	41,955	113,793	77,470	86,437	135,363	141,257
ロシア	51,366	108,191	302,353	428,811	532,748	580,792	340,926

表5 輸入単価（100g、単位：円）

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
合計	15.0	18.8	26.1	20.2	18.0	17.7	16.9
韓国	38.1	37.3	30.4	26.4	27.4	31.2	29.4
中国	6.9	8.0	9.5	13.2	14.6	18.3	21.8
台湾	53.8	51.3	45.1	39.7	38.0	34.7	36.4
ロシア	14.3	17.8	24.6	18.6	16.3	15.6	12.7
北朝鮮	14.6						
参考：日本	60.0	64.0	68.0				

出所) 表1と表4より筆者算出。日本の数値は、産地での卸売業者への平均販売単価。

表6 ロシア沿海地方におけるシジミ年間漁獲割当量と漁獲量、および輸出货量（単位：トン）

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006
漁獲割当量	2,100	544	200	499	500	500
漁獲量	348.46	442.93	199.97	450.00	382.18	315.39
輸出货量	日本向	403.99	281.73	147.83	92.37	310.99
	韓国向	-	13.20	-	39.00	99.40
	合計	403.99	294.93	147.83	131.37	410.39

出所) 漁獲割当量および漁獲量はロシア沿海地方漁業規制局提供資料より、輸出货量はロシア極東税関提供資料より筆者作成。

注

- 1 2012年度のシジミ漁獲および輸入については、『水産経済新聞』、2013年5月24日付も参照。
- 2 安木新一郎（2009）「ロシア産シジミ輸入の動向」『ロシアNIS調査月報』、54（2）、929、pp. 22-28。
- 3 『読売新聞』、2007年3月13日付によると、山口県下関港に入港した中国船籍の貨物船が北朝鮮などに入港したことを申告していなかったとして、下関海上保安署は貨物船の中国人船長を逮捕し、下関市の水産物輸入代理店を捜索した。この貨物船が北朝鮮産の可能性のあるアサリ60トンとシジミ16トンを積載していたことも判明しており、海保は、貨物船が産地偽装して北朝鮮産の水産物を持ち込もうとしていた可能性があるとして、外為法違反容疑でも調べている。貨物船は2007年3月8日に下関港に入港した際、中国・丹東から入港したと申告したが、海保や税関などの立ち入り検査で、実際には北朝鮮や韓国の港に立ち寄っていたことが判明したという。このようにして2006年10月の経済制裁の発動以降、北朝鮮産シジミ輸入は厳しく取り締まられている。  
また、2012年に発覚した輸入シジミの産地偽装の具体例については、安木新一郎（2013）「シジミから見た日本社会」『日本の科学者』、48（7）、pp. 50-53で取り上げた。
- 4 安木（2009）、pp. 22-28。
- 5 例えば、「外国為替及び外国貿易法に基づく北朝鮮に係る対応措置について」（平成21年（2009年）4月10日閣議決定）により、北朝鮮からの輸入の多かったアサリ、ウニ、シジミ、ベニズワイガニ、ズワイガニ、ケガニ、マツタケ等の農林水産物を、第3国経由を含め、取り扱わないようにとの連絡が農林水産省から関係省庁に送られている（<http://www.jfta-or.jp/wordpK/?p=204>）（最終閲覧日：2010年4月29日）。
- 6 『スポーツニッポン』、2008年6月4日付。
- 7 『毎日新聞』、2012年7月13日付。
- 8 経済産業省プレス・リリース、2012年6月8日付。

